

巨大都市のパラディグムの次元：

「江戸繁昌記」にみる江戸の表象，1832-1836

The Binary Opposition of the Metropolis:

The Representation of Edo in *Edo Hanjōki*

◆日時 Date and Time

2020年1月16日（木） **17:30-18:30** ※通常より**30分遅く**開始します

5:30 p.m. -6:30 p.m., Thursday, January 16th, 2020

*We will start the seminar 30 minutes later than usual.

◆会場 Venue

東京大学東洋文化研究所 1階ロビー

Ground floor, Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo

◆報告者 Speaker

張璉氏（アリゾナ州立大学）

Jin Zhang (East Asian Language and Civilization, Arizona State University)

◆コメンテーター Commentator

大木康氏（東京大学東洋文化研究所教授）

Yasushi Oki (Professor, IASA, The University of Tokyo)

◆報告言語 Language

英語・日本語 English and Japanese

本報告は、幕末から大正にかけて流行したテーマである100点以上の各地の繁昌記がいかなる意義を持つか、具体的に成立から発展に至るまでの様相がどのようなであったかといった問題を明らかにする為に、寺門静軒の「江戸繁昌記」・服部撫松の「東京新繁昌記」・中島棕隠の「都繁昌記」等を調査し、「繁昌記物」というジャンルを文学史的な文脈に位置づけることを試みる。また、「江戸繁昌記」を中心に、百万都市たる江戸の都市文化を論述する。